



CORPORATE PROFILE

ビジョン

「やりたいこと」を「できる」に変える

高い熱量を持って挑戦するすべての人たちが、
自分のやりたいことを叶えられるような社会を
インターネットとともに作る。
それが、さくらインターネットの目指す姿です。
インターネットには
人と社会を幸せにする力があると信じて、
「やりたいこと」を「できる」に変える
アプローチを広く届けていきます。
お客さまをはじめ、社員、地域みなさまなど、
つながりのあるすべての人のために、
未来のあるべき姿を
思い描くことを大切にしています。



お客さまへの思いをかたちに

ロゴマークの基本となるモチーフは、流れに浮かぶ、二片のさくらの花びらです。花びらの浮かぶ流れは、データの流れ、そしてその流れを支えるインフラを表し、SAKURAの“S”をかたちづいています。そして、手をつなぐように向かい合う二片の花びらには「お客さまとともに」という思いも込めました。

代表挨拶

余白を生み出す、 日本モデルのデジタルインフラへ

インターネットは、今や必要不可欠なインフラとして社会に定着しました。多くの人たちが文化的に豊かに暮らしていくための社会基盤そのものであるとも言えます。そして、その豊かさはさまざまな人・企業の主体的な活用によって多岐に広がり続けています。リモートワークの普及によって場所にとらわれず子育てや介護などと両立しながら働けるようになったり、ITを使った新しい産業も次々と生まれました。DXは効率化といった文脈で語られがちですが、その人の働き方や、ビジネスのあり方、ひいては社会のあり方を変えることに、本質があるのではないのでしょうか。

日本は少子高齢化という大きな問題を抱えています。そんな日本が少子高齢化のまま幸せになれる、新たな社会のあり方を切り開きたいと考えています。デジタル化によって、少子高齢化と豊かさを両立させ、人口が減っていることすらチャンスに変えていく。そうして日本が試金石となれば、日本だけが幸せになるのではなく、人口が減り続ける他国に、安心の材料を差し出すこともできるはずです。

わたしたちが目指すのは、社会に余白をもたらすデジタルインフラです。言い換えれば、資源や時間などの量的な「豊かさ」、価値観のぶつかり合いを解決するような「ゆとり」を意図的につくるといことです。目先の利益ではなく、自分の、自社の、社会の伸びしろを全員が考えられるようにする。そうすると、社会は全く変わるでしょう。

今後も社会のインフラとして役割をまっとうしながら、日本に最適なあり方を模索し、やりたいことが叶えられるような社会に向けて、さらなる向上に努めてまいります。みなさまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

インターネットは文化そのもの

インターネットの大きな特徴は、すべての人に対して平等かつオープンであること。そこでは、アイデアや技術がフラットにシェアされ、誰でも新しい取り組みに挑戦できるチャンスが広がっています。インターネットは、人々がつながる共通のプラットフォームであり、創造豊かな社会をつくる文化そのものだと思っています。

わたしたちはインターネットが好きで、会社の風土としてもインターネットの文化が根付いています。さまざまなバックグラウンドを持つ人がフラットに集まっていて、社員の半数以上はエンジニアです。ルールは少なく、役員会議の議事録はオープンにしている、年功序列といった上下関係もありません。さくらの文化は、インターネットそのものとも言えそうです。

創業のきっかけ

1996年、当時18歳の学生だったわたしは、人生において二度と超えることのないであろう大きな衝撃と感動を覚えました。それは、所用で訪れた秋葉原のとあるパソコンショップの店頭にあった「インターネット体験コーナー」にて、遠く離れた母校の舞鶴工業高等専門学校にある、自身のWebサーバーにアクセスできた時のことです。外部のネットワークから自分のサーバーにアクセスすることは、現在でこそ当たり前ですが、当時の電話やパソコン通信などの通信環境は非常に高価で、個人が気軽に使えるものではありませんでした。

そのような時代に、遠く離れた舞鶴にある自分のサーバーから、今自分がいる秋葉原のパソコンに応答が返ってくる。これは社会にすごい変化を起こすぞと身震いするような感覚がありました。インターネットが持つ可能性を多くの人と共有したい。一人ひとりが「やりたい」と思っていることを「できる」ようにしたい。そしてその年の12月23日、学生寮の一室で一つのレンタルサーバーサービスをつくりました。さくらインターネットの歴史は、こうして始まりました。



代表取締役社長/最高経営責任者

田中 邦裕 Kunihiro Tanaka

大阪府出身。舞鶴高専在学中の18歳の時にさくらインターネットを起業。自社の経営の傍ら若手起業家やITエンジニアの育成にも積極的に取り組んでおり、複数企業の社外取締役やIPA未踏プロジェクトマネージャーも務める。また、ソフトウェア協会(SAJ)会長・日本データセンター協会(JDCC)理事長・日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)副会長・関西経済同友会常任幹事などとして、業界発展のためにも尽力。

ビジョンの実現に向けて

インターネットの普及によって社会は急速に発展を遂げ、そのスピードは今後ますます加速していくことが予想されます。変化の激しい時代でありながらも、多くの人がやりたいことを叶えられるような社会をインターネットとともにつくっていく。そのために注力しているES(エンプロイースクセス)とCS(カスタマーサクセス)の実現、「クラウドビジネスへの集中」と、当社がさらに成長するために掲げる4つのテーマをご紹介します。

ESとCSの実現

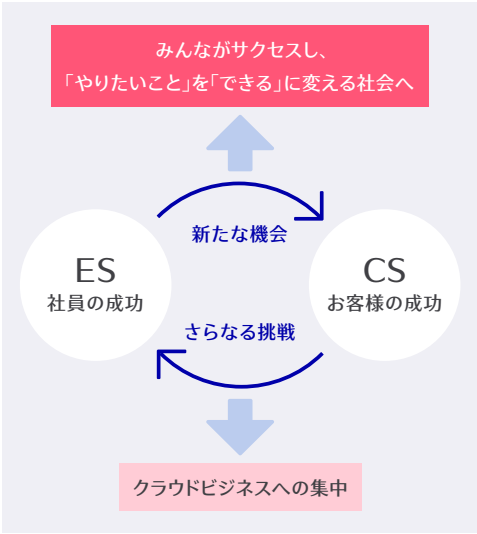
社員の挑戦がお客さまの成功につながり、お客さまの成功は新たな機会として社員に還元され、社員はさらに大きな挑戦ができる。そして会社としても成功につながる。そうしたすべての人が成功するスパイラルの実現を目指しています。

ES エンプロイースクセス

社員の成功やありたい姿を実現するための取り組み、および考え方のこと。

CS カスタマーサクセス

お客さまの成功を実現するための取り組み、および考え方のこと。



ESの方針

お客さまに価値を提供し続け、持続可能な会社へ。
人事戦略の全体像を実現する5つの柱をご紹介します。

01

人材育成と学び合う文化づくり

社内外でデジタルリテラシーに関する学びの場を提供するとともに、学びを生かす機会の提供、学び合う文化づくりに取り組みます。

02

多様な人材の活躍促進

すべての社員が多様な個性を持つダイバーシティの一員であることを前提に、社員一人ひとりの個性や成長する意欲と、個々の能力を最大限に発揮できる文化づくりに取り組みます。

03

フレキシブルな働き方

会社が「働きやすい」環境を提供し、その中で社員個人が「働きがい」を追求できることを理想として、働き方の多様性を尊重するさまざまな取り組みを行います。

3つのバリュー ～チームで共創を生むための行動指針～

最高のチームとなり、共創を生むために3つの行動指針を掲げています。

肯定ファースト

本質的なコミュニケーションをするための土台として、まずは相手の話を肯定的・受容的に受け止めた上で、提案や議論することを大切にしています。

リード＆フォロー

チームの成功のためには、ビジョンや目標を掲げ先頭に立ち、リーダーシップを発揮する人と、全力でサポートし、フォローシップを発揮する人の両方が必要です。時にはリーダーとして、時にはフォロワーとして、一人ひとりが自律して行動できることを大切にしています。

伝わるまで話そう

人間関係のトラブルの多くはお互いの合意のない期待から生まれると言われています。相手に伝わるまで話すこと、わかるまで聞くことを通して、お互いの期待を明確化し、すれ違いを起こさないことを大切にしています。

CSの方針

ビジョンを語り合う関係性

さくらインターネットが一番大切にしているのは、お客さまとともにビジョンを語り合い、思いを共有する関係性です。お互いに気兼ねなく話せる信頼関係を築くことができ初めて、本当にやりたいことへの挑戦ができるのだと思います。ただサービスを提供するだけでは終わらず、変化し続ける事業に対して、やりたいことを一緒にやりましようと思いを掛け合う。そして掴んだ成功をお客さまと一緒に喜ぶことが、当社のカスタマーサクセスです。

人と人のつながりを太く結ぶ

お客さまと長期的なお付き合いをしていくためには、人と人とのつながりが欠かせないと考えています。サービスの使い方を学び合う勉強会は、まさに距離を近づけるための場です。今までは聞きづらかったようなことを聞きやすくして、わたしたちからも一歩踏み込んだサービスを提案させていただく。そして、良い知らせも悪い知らせも一緒に向き合っていける状態をつくり、継続的な支援によってお客さまの大きな成功を生み出していきます。

クラウドビジネスへの集中

「ESとCSの実現」を行うと同時に当社が取り組んでいるのは「クラウドビジネスへの集中」です。デジタル庁設立に象徴されるような国の取り組みをはじめ、地方自治体や民間企業においてもDX推進を掲げるデジタル時代が到来しています。この大きなビジネスチャンスに踏み出していくには、会社のあり方を大きく変革することが必要だと考えました。それが「クラウドビジネスへの集中」です。

物理基盤からクラウドが主体となる事業構造へと変革し、クラウドサービスの機能強化、ソフトウェアサービスの開発などに注力しています。さらに、サーバーに詳しいこれまでの顧客層から裾野を広げ、デジタルを熟知されていない一般の方や企業にもサービスの提供範囲を広げていき、誰もがインターネットで「やりたいこと」を「できる」に変えられるよう支援します。

さらに成長するための重点テーマ

さくらインターネットが社会の変化に対応してデジタルを主軸とした課題解決を提供できるよう、注力するテーマを設定しました。

デジタル化

デジタル化は効率化という文脈で語られることが多いですが、生活、ビジネス、社会のあり方そのものを変える力があります。デジタルを主軸にしながら、日本が抱える低成長などの課題を解決していくことが、わたしたちの命題です。

スタートアップ

高い熱量をもちながら、精神的にも、考え的にも、新しい人が世界の常識を壊して、よりよい世の中にしてくれると信じています。さくら自身もスタートアップとして始まったので、事業で得られた知見や資金を次世代のスタートアップに投資して挑戦を応援します。

地方創生

リモートワーク前提の働き方に転換するとともにオフィスを東京に集中させず、全国各地に拠点を構えて地域の人材を雇用しています。また、その土地ならではのデジタル化がより活発になるよう、地域の方々との交流を通じて取り組んでいきます。

教育

誰でもITを活用できるように、そして活発なコミュニティが生まれるように。社員に限らず、これからクラウド化に取り組む一般企業の方、ITの学びを深めたい学校の先生、次世代を担う子どもたちなど、広範囲に渡る教育体制の構築を目指しています。

強みとこだわり

わたしたちはお客さまの成功を支えることに強いこだわりを持っています。
その原動力は、さくらインターネットがエンジニアリング主導の会社であり、
新しいビジネスへの挑戦に深い共感があること。常識的な回答や会社としての
規格に縛られず、やりたいことの実現にまっすぐ向かいます。
ここでは、長年の実績による強みと、さくららしさが感じられるこだわりをご紹介します。

開発からサポートまで、オールインワンの体制

運用・開発・研究・営業部門など、さまざまな部門をすべて自社に統合。経験の蓄積を図るほか、
ニーズに応じたサービスの提供に生かしています。部門間の連携も強く、お客さまとの打ち合わせにエンジニアが参加することも。直接お話をうかがうことで深いコミュニケーションを可能にし、具体的な検討へ移れるようにしています。

先進技術の実用化を図る研究部門

進化の激しいインターネット技術に対し、先進技術の調査・考察をする研究部門を持っています。
新しいセキュリティ対策や、高速ネットワーク技術、人工知能、ビッグデータ、クラウドコンピューティングなど、多くの研究プロジェクトに参加しながら先進技術を実用化する方法を探求しています。

自走できるように使い方をレクチャー

当社のサービスをより効果的に活用できるよう、サポート体制を整備しています。サービスを熟知した社員が、使い方から問題解決まで一連の流れをご案内。また、使い慣れるまでの心理的ハードルを下げるために、座学から実践までを1セットとした勉強会も個別に開催しています。

お客さまの成功を軸に幅広くご提案

お客さまが抱える課題やニーズに応えるため、サービスを幅広く提供しています。場合によっては適切なパートナー企業のご紹介や、他社のサービスをご提案することもあります。お客さまの成功を第一に考え、できることを探し続ける姿勢を大切にしています。

多くのユーザーに支持されている国産パブリッククラウド

当社の国産パブリッククラウドは、高い信頼性と安全性を誇ります。データセンターを自社設備として持ち、日本国内でデータを保管しているため、安心かつ法令対応が容易です。利用数約49万件以上と、多くのお客さまにご利用いただいています。

ご相談からサービス実装までの流れ

お客さまの「やりたいこと」を「できる」に変えるために、対話を軸としながら一緒にお客さまのビジョンを追求しています。ここでは、お仕事のご相談からサービス実装後までの大まかな流れと特徴をご紹介します。

1

CONTACT

すべての挑戦する人を歓迎します

さくらインターネットは学生起業から始まり、多くのスタートアップとともに成長してきました。挑戦する人のアイデアを実現する力になりたいと考え、「やりたいこと」を「できる」に変えるお手伝いをしています。学生からのお問い合わせも歓迎です。

2

HEARING

お客さまの本質的な成功を探して

詳細は決まっていなくとも、まずはお話をうかがい、やりたいことの本質は何か、どんな課題があるのか明らかにするところから始めています。最初の仮説とは異なるところに解決策がある場合も考慮し、お客さまとしっかりコミュニケーションを取ることで目的と課題を明確化させていきます。

3

PROPOSAL

経営にも、現場にも響く提案を

経営層と現場にはギャップがあるということを前提に、両者に喜ばれる提案を心がけています。現場に対しては実情に根ざした改善を目指し、作業者の意見や社内事情から解決策を導き出します。また、経営層に対してはビジョンの具現化に向けた実現可能なプランをご提案し、導入後の影響や効果についてもご説明します。

4

OPERATION

お客さまのビジョンに向かって、成長を連鎖させる

サービス実装後も、こまめなコミュニケーションを通じて伴走します。変化し続ける事業に対して、そのときどきの課題解決や長期的な視点でのご提案、サービスをより効果的に活用いただけるよう無料の勉強会もおこなっています。お客さまのビジョンを実現するためのパートナーとして、常に寄り添いながら連続的な成長をサポートします。

当社のサービス

さまざまなニーズにお応えし、お客さまの事業を支援します

クラウドコンピューティングサービス

個人から法人、文教・公共分野など、お客さまのニーズに合わせて幅広くサービスを提供しています。

さくらのレンタルサーバ

手軽な個人向けから安定性重視の法人向けまで。
運用・保守はさくらにおまかせ

さくらインターネットのデータセンターに設置した高性能サーバーに、OSやアプリケーションをインストールして提供するサービスです。面倒なメンテナンスが不要で、手軽にホームページを開設したい方、メンテナンスの手間なく会社のメールなどを運用したい方におすすめです。独自ドメインにも対応し、プランによっては法人での利用も想定した機能をご用意。セキュリティ対策や障害対応、バックアップなどはさくらインターネットで行うため、サーバー構築や運用管理のコストを削減できます。

さくらのVPS

レンタルサーバーの手軽さとクラウドの拡張性を
併せ持つ仮想サーバーサービス

「さくらのVPS」は、性能重視のSSDが低価格で利用できる仮想専用サーバーサービスです。管理者権限付きの高機能仮想サーバーで、Linuxカーネル標準搭載の仮想化技術「KVM」を採用し、完全仮想化を実現。1台の物理サーバー上に、完全に独立した複数の仮想サーバーを構築し、専用サーバーのような使い勝手とセキュアな環境を提供します。個人のお客さまから、エンジニアの開発環境や、検証環境としてもお使いいただけます。

また「さくらのVPS for Windows Server」は、リモートデスクトップはもちろん、Officeも使用できビジネスユースに最適です。

さくらのクラウド

インターネット上で多彩なインフラ構成を実現で
きるパブリッククラウドサービス

「さくらのクラウド」は、信頼性とパフォーマンスに優れた国内開発のパブリッククラウドサービスです。高品質な仮想サーバーを抜群のコストパフォーマンスで提供し、直感的な操作が可能なコントロールパネルと、自動構築が可能なAPIの提供により、お客さまのビジネスを強力に後押しします。24時間365日の厳格な監視体制、耐障害性を高めた設計、そして情報セキュリティに関する第三者機関の定期的な審査・認定により、安心してご利用いただけます。開発者の視点を大切に、高い機能性と優れたコストパフォーマンスを兼ね備えたサービスです。2023年11月、「さくらのクラウド」はデジタル庁が募集した「ガバメントクラウド整備のためのクラウドサービス」に条件付きで認定されました※。必要な技術要件を満たすべく開発強化を行い、2025年度中にガバメントクラウドとしての機能拡充を目標としています。

※ 2025 年度末までに技術要件をすべて満たすことを前提とした条件付きの認定です。

【ガバメントクラウドとは？】

デジタル庁が推進する「ガバメントクラウド」は、政府共通のクラウドサービスの利用環境です。クラウドサービスの利点を最大限に活用することで、迅速、柔軟、かつセキュアでコスト効率の高いシステムを構築可能とし、利用者にとって利便性の高いサービスをいち早く提供して改善していくことを目指しています。

さくらインターネットは、クラウドコンピューティングサービスやIoTサービスを、自社運営の国内のデータセンターを生かし提供しています。インターネット環境の変化とともにお客さまのご要望にお応えする多様なサービスを開発し、DXを支援。現在、約49万件以上のお客さまにご利用いただいています。

さくらの専用サーバ PHY

最速10分で利用可能。クラウドの使い勝手と物理
サーバーの性能をあわせ持つ物理専有型サービス

「さくらの専用サーバPHY」は、クラウドの使い勝手と物理サーバーの性能をあわせ持つ、物理専有ホスティングサービスです。お申し込みから最速10分で利用できるオンデマンド性と、OSインストールやサーバー再起動をコントロールパネルから簡単に操作できるセルフサービス性を実現、サーバーの台数上限はなくメモリやストレージの追加も可能です。

月額料金は、通信料金を含めた固定費のみのためランニングコストを抑えることができます。また、当社技術スタッフによる24時間365日のオンサイト保守により、オンプレミス環境に比べ機材メンテナンスの手間を省くことが可能です。

高火力 コンピューティング

生成AI・機械学習に最適な高性能かつ費用対効
果に優れた計算リソースサービス

生成AI・機械学習やビッグデータ分析、映像のレンダリング用途に特化した、大量の計算資源（GPUサーバー）を圧倒的なコストパフォーマンスで利用できる「高火力コンピューティング」。学術・研究機関、法人など形態や規模を問わずご利用いただけます。堅牢なファシリティとともに「安心」と「快適」を提供します。

IoTサービス

さまざまな“モノ”がインターネットとつながることで新たな体験や価値を生み出すIoTサービスを提供しています。

さくらのセキュアモバイルコネク



高セキュアな閉域網ネットワークを提供するIoT向けのモバイルネットワークサービス

定常的なデータ取得やアラートを検知した際の一時的な通信、外出先や遠隔地からの操作といった既存のIoTサービスに最適な、高セキュアな閉域網ネットワークを提供するIoT向けSIMサービスです。複数キャリアにつながり、さらにネットワーク通信速度や契約期間に制限を設けず、使いやすい通信を実現しました。

サービスの基盤となるデータセンター

都市型と郊外型を結ぶ、全国3つの拠点

さくらインターネットのデータセンターは、北海道、東京、大阪の3拠点。データセンターとは、大容量高速回線や非常用電源設備などを備えた、サーバーの管理に特化した施設です。安全で快適なインターネット環境を提供するため、国内最大級の通信回線容量を確保し、高速ネットワークと堅牢なファシリティを備えたデータセンターを、24時間365日の体制によって自社で運営。各地のデータセンターが連携しながら当社のインターネットサービスを支えています。

データセンターの新たなあり方「石狩データセンター」

2011年11月、北海道石狩市にクラウドに特化した日本最大級規模の石狩データセンターを建設。石狩データセンターは、当社のサービスを支えながら、新たな試みを取り入れる挑戦の場でもあります。建設当時から、環境配慮型のデータセンターとして外気冷房を採用した消費電力の削減にも取り組むなどチャレンジを続けてきました。ここで得られた知見は各地のデータセンターへ共有し、品質の向上に貢献しています。



石狩データセンター 3号棟

環境配慮をベースに

CO2排出量ゼロを実現

データセンターの電力に、水力発電を中心とした再生可能エネルギーを2023年6月1日より採用し、年間CO2排出量ゼロを実現しています。

天然の冷房を活用して

石狩データセンターでは、冷涼な外気をサーバルーム内に取り込む「直接外気冷房方式」と室外機と空調機の間を循環する冷媒を外気で冷やす「間接外気冷房方式」を導入し、一般的な都市型データセンターと比べて約4割の消費電力を削減しました。世界を見ても最高水準のエネルギー効率です。



データセンターを支えるバックボーン回線

国内最大級の大容量バックボーン

東京・大阪間を数多くの大手ISPやIXと接続することで、ネットワーク障害の発生率を限りなくゼロに近づけ、高い可用性とトラフィック配信能力を実現しています。

安定性のある高速ネットワーク

東京・大阪・北海道の各エリア間を100Gbps以上での冗長構成で接続。対外接続では複数のIXや大手ISPと接続し、約120社のトラフィック交換により、品質を支えています。スループットをより求められる場合は、複数の回線接続による負荷分散をおこない、高い処理能力と安定性を実現しています。

災害時も運用を止めない安全対策

震度6強の地震にも耐える制震・耐震・免震構造を採用。冗長構造の無停電電源装置 (UPS) の設置など、障害時も運用を継続できる構成です。



余白をもたせた設計

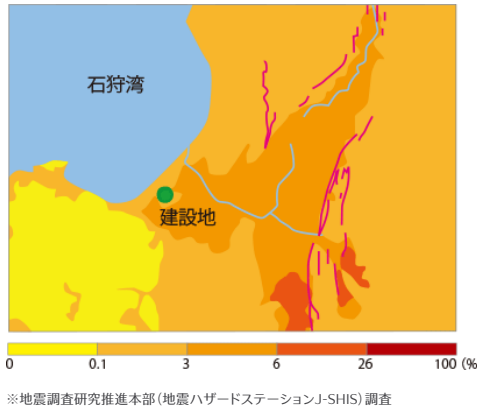
敷地面積は約5万㎡と東京ドームの約1.1倍の広さ。1棟あたり約1,280ラックまで対応できる分棟式の建物を、最終的には5棟/約6,800ラックまで増設する予定です。現時点での必要数より多くスペースを確保し、需要に応じた素早い拡張を可能に。またサーバーを置くだけではなく、当社の事務所やイベントスペースとしても機能しています。非常時には社員やその家族の避難所としても活用できます。

災害のそなえ

地震・津波リスクの低い、安全なロケーション

所在地の下に活断層は無く、大規模地震による影響を受けにくい地域です。また、陸上における津波の最高到達点4.7mに対し、建設地の地盤高は5.5m以上と安全性の高い場所です。

今後30年間震度6以上の揺れに見舞われる確率



北海道全域の大停電を乗り切った経験を生かす

一般的にデータセンターには、停電時の対策として非常用電源設備と48時間分の備蓄燃料があり、電力供給が停止すると、この燃料を用いて自家発電をおこないます。2018年の北海道胆振東部地震では道内全域が約60時間停電するという想定外の事態でしたが、関係各所から追加燃料のご支援をいただき乗り切ることができました。この経験は、防災訓練や備蓄の見直しなど現在の災害対策に生かされています。



技術力

未来をつくる

さくらインターネット研究所

インターネット技術に関する研究をおこない、成果の発信と利用を通じて社会と会社に寄与することを目的に設立しました。進化の激しいインターネットの世界で、5年、10年先の未来を予測することは困難です。そのため正確な予測にこだわらず、いろいろなアイデアを試しながら、未来の選択肢を増やす役割を担っています。

外部との協力関係

ときには企業と手を取り合い共通テーマの研究をおこなっています。また、大学や自社インターンにて、卒論、学会用の論文執筆に協力することも。外部との協力関係によって、大きな成果や新たな気づきを得られています。

実証実験で可能性の精度を上げる

研究所では、さまざまな実証実験をおこなっています。道筋を明確にする上では、どのような結果にも意義があると考えます。それが当社に直接的な利益を生まずとも、技術の発展によって社会に寄与できるのであれば、研究所の目的に沿っていると言えます。

安心をつくる

SRE室

さらなる信頼性の向上へ

SRE室を設けて、さらなるサービスの信頼性の向上に努めています。SRE室に所属するエンジニアは全員開発の基礎を身に付けている上、それぞれに得意分野があり、多角的な力を発揮しながらチームで業務にあたっています。また、社員一人ひとりの存在をサービス向上につなげるという目標も掲げて活動しています。

SRE (Site Reliability Engineering)：サービスやシステムの運用をよりよくしていくための考え方や、その業務にあたるエンジニアのこと。

Abuse対策チーム

サービスの不正利用対策を強化

当社では迷惑行為・不正なサイトなどの報告を受ける窓口を設けています。窓口では当社のサービスから行われたサイバー攻撃、迷惑メールの送信、権利侵害などの、公共における不適当なふるまい (Abuse／アビューズ) 全般の報告を受け付けており、サービス契約約款に基づいて対応しています。Abuse対応では、約款だけでなく関係ガイドラインを順守する、ベストプラクティスを参照する、数値化し分析するなど、総合的なPDCAで対策強化にもつなげています。また、関係する省庁や団体などさまざまなステークホルダーと適切な関係をもって、対応に努めています。

CSIRT

お客さまとインターネットの安全のために

SAKURA.SIRT (さくらサート) を設立し、日本シーサート協議会へ加盟。SAKURA.SIRTでは「お客さまとインターネットそのものを安全にしていく」をモットーに、専門技術者とともに社内外と連携し、セキュリティ関連情報や情勢の把握・共有および活用を実施しています。



サポート体制

多種多様なサポート体制

24時間365日、いついかなる時でもお客さまのお困りごとを解決できるよう、時代の変化に合わせて、窓口とサポートコンテンツを拡充しています。ご自身でも解決できるようコンテンツを提供すると同時に、じっくりお話を伺うオンラインサポートも実施することで、課題に向き合いながら、頂いた声を自社サービスに反映し、「やりたいこと」を「できる」に変えられるようなサポートをしています。

さくらのサポート情報

サービスの利用マニュアルやFAQ、お問い合わせ窓口についてご案内しています。



<https://help.sakura.ad.jp/>



さくらのユーザーフィードバック

サービスや機能について、ご意見・ご要望をお寄せいただく掲示板



<https://sakura.uservoice.com/>

SNSでのサポート

カスタマーセンターの公式キャラクター まりなが、よく頂く質問やサービスのマニュアル、サービスに関する情報をYouTubeやXで発信



カスタマーサポートまりな
公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/@marinach>



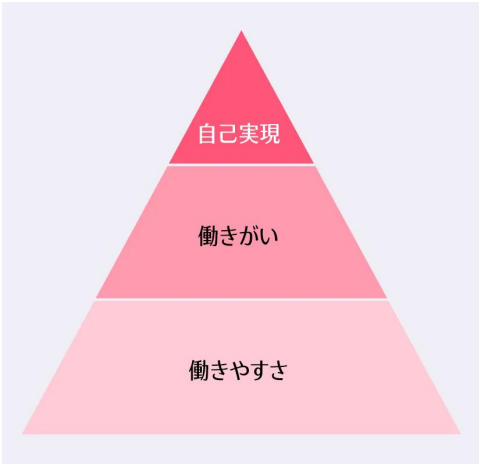
カスタマーサポートまりな
公式X (旧Twitter)
https://twitter.com/sakura_ope

働く環境

さくらインターネットでは、会社が「働きやすい」環境を提供し、
その中で社員個人が「働きがい」を追求できることを理想として、
働き方の多様性を実現するさまざまな取り組みをおこなっています。

働きやすさと働きがいのために

「働きやすさ」は、社員の活動を支える土台のようなものです。正社員として雇用が守られている、ライフステージに合わせた働き方を選べるなど、安心して働ける環境が整っていないと、上の次元に位置する「働きがい」は生まれにくいと考えます。会社が「働きやすい」環境を提供し、その中で社員個人が「働きがい」を追求できることを理想として、社員個人の成長やモチベーションの向上につながるよう、環境や制度づくりを通じて支援しています。



自己実現への3段階

リモート前提の働き方

場所に縛られず、どこでも活躍できる環境づくりを推進するために、リモートワーク前提の働き方を採用しています。業務フローも出社を前提としないものに再構築したため、オフィスから離れた地域に住む社員も増えてきています。

さぶりことは

さぶりこ (Sakura Business and Life Co-Creation) は、会社に縛られず広いキャリアを形成しながら、プライベートも充実させ、その両方で得た知識・経験を共創につなげることを目指した制度の総称です。

制度を考案する際には、社員の声を聞きながら、社員にとって使いやすいか、さくらインターネットらしい風土を醸成できるかの両面から検討し、制定後も活用状況を見ながら更新を続けています。

「さぶりこ」ワーク

「働きやすさ」を実現するための、多様な働き方を支援する制度

ショート30 業務を早く片付けたら、 定時30分前に退社OK	フレックス その日の勤務時間を、 10分単位でスライド調整	タイムマネジメント 20時間分の残業手当を 先払い支給
リフレッシュ 心身のリフレッシュを 目的とした休暇制度	ファミリータイム 産休・育休・出生時育休明けにも フレキシブルな時短勤務制度を用意	グループコネクト 社員間コミュニケーションの 活性化を支援

さぶりこキャリア

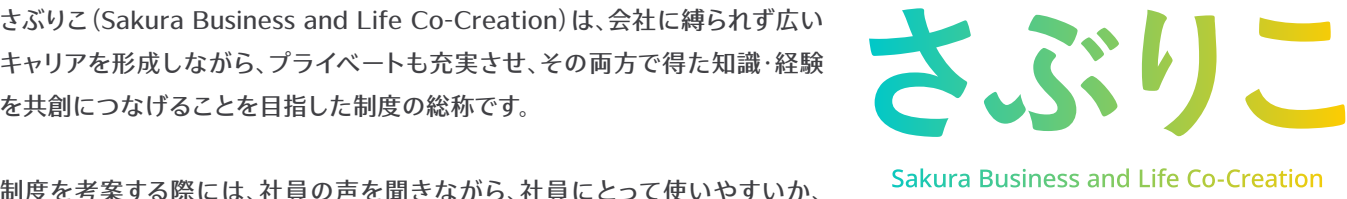
「働きがい」を高めていくための、キャリア形成を支援する制度

</

各種支援について

社員が働きがいにコミットできるよう、ライフステージを支援する制度

次世代教育支援 正社員の子ども1人 (20歳まで)につき13,000円を支給	さくらの祝金 社員の子どもの保育園・幼稚園、小学校、中学校、 高校・高専、短大・大学に入学時に、祝金を支給
通勤手当・住宅補助費 通勤手当(通勤費用)、住宅補助費 (通勤費用が25,000円以下の場合、 25,000円から通勤費用を引いた額)を支給	通信手当 不自由なくリモートワークできるよう、 ハイスペックノートPCの貸与、 チャットツール・テレビ会議ツールの アカウントの付与に加え、毎月3,000円を支給



情報セキュリティ

ISMAP

対象サービスにおいて、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度」(通称: ISMAP(イスマップ))のクラウドサービスリストに登録されています。ISMAPは、日本政府が求めるセキュリティ要求を満たしているクラウドサービスをISMAP運営委員会があらかじめ評価・登録する制度です。ISMAPに登録されたクラウドサービスを提供する事業者は、管理基準に基づいた情報セキュリティ対策の実施状況について監査基準等に基づき監査機関による監査を受け、さらにISMAP運営委員会による適合状況の審査に合格することが求められています。

ISMS

情報セキュリティに対する国際水準の第三者適合性評価制度である情報セキュリティマネジメントシステムの認証基準「JISQ 27001:2014 (ISO/IEC27001:2013)」をすべての事業所およびデータセンターにて取得しております。



ISMSクラウドセキュリティ認証

クラウドサービスに特化した情報セキュリティの認証である「ISMSクラウドセキュリティ認証」を取得しています。さくらのクラウドにおけるIaaSサービスの提供や、容量無制限のオブジェクトストレージサービス、コンテンツ配信のCDN(Webアクセラレータ)サービスがその範囲であり、今後も適用範囲の拡大とより安全なサービス提供に努めてまいります。



PCI DSS

クレジットカード情報を安全に取扱うことを目的として策定されたセキュリティ基準「PCI DSS」Ver.3.2の全12要件のうち、物理的なセキュリティに関する「要件9」や「要件12」に準拠しております。



プライバシーマーク

JIS Q 15001:2017に準拠した個人情報保護に関する個人情報保護マネジメントシステムに適合し、プライバシーマークを付与されております。



SOC2・SOC3

石狩データセンターのデータセンター共通サービス^{※1}、コロケーションサービス、ハウジングサービスのセキュリティおよび可用性を対象にした「SOC2 Type2報告書」および「SOC3報告書」を監査法人より受領しています^{※2}。

「SOC2 Type2報告書」は当社サービスをご利用中・ご検討中のお客さまに開示しております^{※3}。「SOC3報告書」は一般公開しており下記リンクよりダウンロードが可能です。

^{※1}データセンター共通サービスとは石狩データセンターで提供しているサービスを安定かつ安全に稼働するための、基盤となる共通サービスです。

^{※2}「SOC(System and Organization Controls)報告書」とは米国公認会計士協会(AICPA)が定めるTrustサービスの原則および規準に基づき、財務報告目的以外の受託サービスに係る内部統制を評価した独立監査人による保証報告書です。

^{※3}「SOC2 Type2報告書」について限られた範囲内でのみの公開となっております。ご希望のお客さまは、弊社担当営業もしくはお問い合わせ窓口にお問い合わせください。



会社情報

商号	さくらインターネット株式会社 (英文名: SAKURA internet Inc.)	役員	代表取締役社長CEO 取締役CFO 取締役 取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役 常勤監査役 社外監査役 社外監査役 社外監査役	田中 邦裕 川田 正貴 伊勢 幸一 前田 章博 畑下 裕雄 猪木 俊宏 廣瀬 正佳 大坂 祐希枝 荒川 朋美 山口 やよい 梅木 敏行 長谷川 浩之 広瀬 智之
事業所	大阪本社 大阪府大阪市北区大深町6-38 グラングリーン大阪 北館 JAM BASE 3F 東京支社 東京都新宿区西新宿7-20-1 住友不動産西新宿ビル 32F 福岡オフィス 福岡県福岡市中央区大名2丁目6-11 Fukuoka Growth Next内 SAKURA innobase Okinawa 沖縄県那覇市松山1丁目2番13号 長谷工那覇ビル1F			
資本金	112億8,316万円	グループ会社	アイティーエム株式会社 櫻花移動電信有限公司 ゲヒルン株式会社 ビットスター株式会社 プラナスソリューションズ株式会社 IzumoBASE株式会社 BBSakura Networks株式会社 株式会社Tellus	
事業内容	クラウドコンピューティングサービスなどの提供 データセンター運営			
発行済株式総数	41,890,700株			
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード: 3778)			
従業員数	997名(連結)※2025年3月末時点	所属団体	・一般社団法人日本経済団体連合会 ・一般社団法人ソフトウェア協会 ・特定非営利活動法人日本データセンター協会 ・一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会 他	

さくらインターネット株式会社 コーポレートサイト



<https://www.sakura.ad.jp/corporate/>

さくらインターネットは、沖縄県的女子サッカーチーム「FC 琉球さくら」のオフィシャルトップパートナーです。



FC RYUKYU SAKURA



<https://sakura.fcryukyu.com/>

さくらインターネット株式会社

大阪本社/〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町6-38 グラングリーン大阪 北館 JAM BASE 3F

東京支社/〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-20-1 住友不動産西新宿ビル 32F

福岡オフィス/〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名2丁目6-11 Fukuoka Growth Next内

SAKURA innobase Okinawa/〒900-0032 沖縄県那覇市松山1丁目2番13号 長谷工那覇ビル1F

2025.5